

令和2年度
事業報告書

社会福祉法人スキーム福祉の会

令和2年度事業報告書

I. 総括

令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止対策に翻弄される1年でした。職員やご利用者はもとより、面会者についても厳しい制限をかけることにより、施設内での感染は防止することが出来ました。また、感染予防対策の効果もあり、稼働率につきましても特養部門、在宅部門とも新型コロナウイルスの影響による利用者減は免れることができました。また、職員に対して国から慰労金として5万円の支給及び各事業所に対して上限額は設けられていますが、助成金を頂き、必要物品の購入が行えたことは施設にとって大きなメリットとなりました。ただ、施設内の行事や研修への参加等が殆ど行えず、職員やご利用者にとりましては物足りない1年になってしまったと思います。今後も継続して感染予防に努め、職員及びご利用者の安全確保に細心の注意を払って参りたいと思います。

令和2年度の重点取組5項目について以下報告します。

1. サービスの質の向上

入所部門・在宅部門ともに他職種との連携を強化するとともに、申し送りファイルを活用し情報共有（職員・ご家族・関係機関等）をしっかりと図り、ご利用者のケアに最大限活かすことでニーズに沿った個別援助を行うことが出来ました。

2. 組織の活性化

従来からの業務に捉われず、介護マニュアルの見直しや、勉強会にてご利用者に対する職員の姿勢・対応等を明確にすることで職員の意識統一を図り意識改革・業務改革を行った結果、根拠に基づいた職員によってばらつきのない介護を提供することが出来ました。

3. 人材の育成

今年度は、新型コロナウイルス蔓延防止の観点から施設内の研修が殆ど実施出来ず、施設外の研修についても殆どの研修が中止される等、スキルアップのための場が殆どなかったのが現状でした。しかし、各事業所での勉強会実施や、WEB研修への参加など、工夫をしながら専門職としてのスキルアップが図れるように努めました。

4. リスクマネジメント

新型コロナウイルス感染防止に向けて職員、ご利用者、面会者等に厳しい制限（マスクの着用、検温の実施、アルコール消毒、他県への往来禁止、面会禁止等）を設けて蔓延防止に努めました。その甲斐があって、令和2年度は新型コロナウイルスを始めインフルエンザやノロウイルス等の感染症発生を防ぐことが出来ました。また、重大な介護事故、交通事故も発生させることはありませんでした。

しかし、年度終了後、早々に新型コロナウイルスクラスターを発生させてしまいました。今後は更に制限の強化を図り、感染防止に努めて参りたいと思います。

5. 防災対策

年に2回の防火避難訓練は想定される出火場所を変えて実践しながらに行いました。出火元の職員は消化作業を行い、出火元から離れた職員は出火元に近いご利用者の避難救助を行うなど、効果的な訓練が実施出来ました。

6. 地域貢献（地域交流・貢献委員会）

ふくしネット総社事業部会の取り組みとしてフードドライブをコープ総社東において実施しました。10月24日には事業部会メンバーの職員1人が、当日の役員として参加しました。また、2月6日には職員の参加は出来ませんでした。物品の寄付をさせて頂きました。

II. 職員構成等

（令和3年3月31日現在）

事業所名	職種	員数
特別養護老人ホーム	施設長 生活相談員 特養部長 機能訓練指導員 看護職員 介護職員 管理栄養士 介護支援専門員 用務員	1名（ケアハウス施設長兼務） 2名（内ショートステイ1名） 1名 1名 7名（内パート2名） 48名（内パート4名） 1名 1名 1名
デイサービスセンター	在宅課長 管理者 生活相談員 看護職員 機能訓練指導員 介護職員	1名 1名（兼務 1名 生活相談員） 2名（兼務 2名） 2名（兼務 2名 機能訓練指導員） 2名（兼務 2名 看護職員） 7名（内パート2名）
居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	2名（兼務 1名 管理者）
ケアハウス	管理者 生活相談員 介護職員	1名（特養施設長兼務） 1名（在宅部長兼務） 1名
地域包括支援センター	主任介護支援専門員 看護師 社会福祉士 支援計画担当者	1名 1名 1名（管理者兼務） 2名
全事業所兼務	事務員	2名（全事業所共通）

在職職員の資格取得状況（取得者数は重複含む）

資格名	取得者数	所属別	
施設長	2名	特養 2	
看護師	6名	特養 4	在宅 2
准看護師	4名	特養 3	在宅 1
介護福祉士	68名	特養 52	在宅 16
社会福祉士	9名	特養 2	在宅 7
作業療法士	1名	特養 1	
精神保健福祉士	2名	在宅 2	
介護支援専門員	13名	特養 4	在宅 9
主任介護支援専門員	3名	在宅 3	
社会福祉主事	24名	特養 15	在宅 9
管理栄養士	1名	特養 1	

Ⅲ. 社会福祉法人スキーム福祉の会 理事会・評議員会 開催状況 (理事会)

開催日	出席者	主な議決事項
R2. 6. 11	理事 6名 監事 2名	平成 31 年度事業報告について 平成 31 年度収入支出決算について 理事長の互選について 顧問の選定について 定時評議員会の日時・場所・議案等について
R2. 9. 17	理事 6名 監事 2名	特別養護老人ホームグリーンアンドリバーホーム（従来型・ユニット型）運営規程の一部変更について 特別養護老人ホームグリーンアンドリバーホーム短期入所生活介護（従来型・ユニット型）運営規程の一部変更について ケアハウスグリーンアンドリバーホーム運営規程の一部変更について 育児・介護休業等に関する規則の一部変更について 令和 2 年度第 1 次収入支出補正予算（案）について 評議員会の日時・場所・議案等について
R3. 3. 17	理事 6名 監事 2名	令和 2 年度第 2 次収入支出補正予算（案）について 職員給与規程の一部変更について 令和 3 年度事業計画（案）について 理事・監事の選任候補者について 評議員選任候補者の推薦について

		<p>評議員選任・解任委員の委員選任について</p> <p>役員及び評議員等の報酬等に関する規則の変更について</p> <p>育児・介護休業等に関する規則の一部変更について</p> <p>のんびり笑家跡地（土地・建物）の売却について</p> <p>エアコンの入れ替えについて</p> <p>ケアハウス夫婦部屋の個室化について</p> <p>施設整備積立金の取り崩しについて</p> <p>人件費積立金の取り崩しについて</p> <p>令和3年度収入支出予算（案）について</p> <p>評議員会の日時・場所・議案等について</p>
--	--	---

(評議員会)

開催日	出席者	主な議決事項
R2. 6. 26	評議員 7名 監事 2名	<p>平成31年度事業報告について</p> <p>平成31年度収入支出決算について</p>
R2. 9. 25	評議員 6名	<p>特別養護老人ホームグリーンアンドリバーホーム（従来型・ユニット型）運営規程の一部変更について</p> <p>特別養護老人ホームグリーンアンドリバーホーム短期入所生活介護（従来型・ユニット型）運営規程の一部変更について</p> <p>ケアハウスグリーンアンドリバーホーム運営規程の一部変更について</p> <p>育児・介護休業等に関する規則の一部変更について</p> <p>令和2年度第1次収支補正予算（案）について</p>
R3. 3. 26	評議員 6名	<p>令和2年度第2次収入支出補正予算（案）について</p> <p>職員給与規程の一部変更について</p> <p>役員及び評議員等の報酬等に関する規程の変更について</p> <p>育児・介護休業等に関する規則の一部変更について</p> <p>のんびり笑家跡地（土地・建物）の売却について</p> <p>エアコンの入替について</p> <p>ケアハウス夫婦部屋の個室化について</p> <p>施設整備積立金の取り崩しについて</p> <p>人件費積立金の取り崩しについて</p> <p>令和3年度事業計画（案）について</p> <p>令和3年度収入支出予算（案）について</p>

IV. 事業所別報告

1. 管理・運営部門

1. 防災教育及び訓練

実施日	訓練内容
R2.6.11	昼間想定 通報、避難誘導、伝達訓練 防災監視盤・火災報知機の実施訓練
R2.11.26	夜間想定 通報、避難誘導、伝達訓練 防災監視盤・火災報知機の実施訓練

2. 職員研修

①施設内研修

研修月	研修名	出席者	講師等
4月19日	就業規則について（服務規則）	80名 90.9%	各ユニット職員
5月	感染症予防について	55名 62.5%	各ユニット職員
6月	K Y T勉強会	75名 85.2%	各ユニット職員
8月	看取り研修	78名 88.6%	各ユニット職員
10月	身体拘束勉強会	85名 96.6%	各ユニット職員
11月	感染症予防研修	79名 89.8%	各ユニット職員
12月	褥瘡予防研修	73名 83.0%	各ユニット職員
1月	事故防止勉強会	70名 79.5%	各ユニット職員
2月	認知症ケア研修	77名 87.5%	各ユニット職員

※施設内職員研修の平均出席率 84.8%

②施設外研修

全国・岡山県老施協・岡山県社協や各種団体が開催する各種研修会へ年間34回、延べ参加人数36名が参加致しました。今年度は新型コロナウイルスの影響により最低限の研修しか開催されず、参加回数は激減しました。

1. 特別養護老人ホーム（従来型）

従来型特養は稼働率目標 97.5%に対して 96.5%、ショートステイは目標 85%に対して 84.6%という実績で1年を終えました。従来型特養に関しては、1年を通じて入院日数を減らすことができず目標を達成することができませんでした。来年度は協力病院との連携をより一層密にしながら、ご入居者の体調の管理を行っていきたいと思います。また、日常生活においては、職員間の情報共有を密に図ることにより、細やかで質の高いサービス提供を実施することができました。

1. サービスの質の向上

〈ケアマネ・相談員〉

- ・新規のご入居者には入居時にご本人やご家族から生活歴及び詳細な事柄について聞き取りを行い、個々に合わせたケアマネジメントに努めました。把握したニーズやケアプランを多職種で共有し、チームケアの実践に繋げました。
- ・新型コロナウイルス感染症の施設内への持ち込みを防ぐため、アクリルパーテーションや、モバイル端末を利用した面会に切り替えることで直接の接触を避け、ご入居者とご家族間の面会をできるだけ継続することができました。
- ・コロナ禍においてご家族の来訪が減少し、ご入居者及びご家族の思いや要望を直接伺うことが難しくなりました。そこで状態を伝える電話連絡の際にご要望等を伺い、その内容を職員間で共有し、できる限り日々の生活に反映させることで、途切れることなく個別ニーズを満たす対応を行う事が出来ました。

〈看護〉

- ・各職種よりご入居者の状態報告を受け、その方にとって適切な看護方法の検討や、処置及びケア内容を看護職員間で共有することで、提供する看護の標準化を図る事が出来ました。
- ・看取り時において、多職種からの情報・ご家族の思い・医師の考えや治療方針等様々な情報を看護職員が間に入って調整し、各関係者と連携することで、穏やかな看取りケアを提供することができました。今後も更によりよい看取りが提供できるよう、継続していきます。
- ・ヒヤリハット報告書及び事故報告書について、エビデンスに基づいた対応策を検討し実践しました。
- ・感染症に対する適切な予防方法や発生時の対応手段について、ユニット会議等での研修や感染症対策委員会において情報の共有を行った結果、今年度においては感染症の発生を防ぐことが出来ました。

〈介護〉

- ・ユニット会議やリハビリカンファレンスを活用し、多職種が協働してケアの見直しを行いました。多面的な視点で得た情報を集約しケア方法を検討したことで、個々のご入居者に合わせた介護の実践に繋げることが出来ました。
- ・介護力向上勉強会でご入居者との関わり方を再認識したことで、職員の意識が高くなり短時間でもご入居者に寄り添ったケアを実施することが出来ました。また、新型コロナウイルス

感染症対策の為、特養全体で行う大きな行事はできませんでしたが、各ユニットごとの実施に切り替えたことで小規模にはなりましたが、楽しみの提供を行う事が出来ました。

〈栄養（給食）〉

- ・食事摂取基準の見直しに伴い、ご入居者の介護状態及び食事形態を分析・考慮の上献立を作成したことで、個別の対応を行う事ができました。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため中止する行事が多く、実施できることが限られましたが、回数・場所の分散等、密を避ける方法を工夫検討し、握り寿司・ミニ夏祭り・クリスマス会のお弁当等、感染対策を行いながら可能な限り実施することが出来ました。
- ・嚥下困難な方や看取りの方等、ご利用者の状態や能力を多職種と連携しながら確認し、食形態の決定や補助食品の選定等個別に対応することで、可能な限りの食事及び栄養の摂取をして頂くことが出来ました。

〈機能訓練〉

- ・訓練計画を立案する際に目標を明確化する事で、生活リハビリや個別訓練の内容変更にも早急な対応ができました。また、本人の意思を汲みとったプラン策定に際し、意思表示が困難なご入居者に対しては、職員がその方に最適であると予想される訓練内容を検討し、計画立案することで、どのご入居者に対しても可能な限りその方に適した訓練を提供することが出来ました。
- ・機能訓練前には日誌やパソコン申し送りの確認及び介護職員や本人からの聞き取りによる体調確認を行った上で訓練を実施しました。気になる点があれば多職種間で情報共有や意見交換の上、早期に対応することで適切な訓練を提供し、その後も経過観察を継続しながら情報を共有することで、常に訓練内容の微調整を行う事が出来ました。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、専門分野の研修会、勉強会、学会の全てが中止された為、講義形式研修の機会が激減しました。そのため書籍や動画サイトを活用して新しい情報や知識を獲得し、訓練や生活の中で活かせるよう実践や情報発信に努めました。

2. 組織の活性化

パソコン共有フォルダを活用した申し送りファイルの運用を開始して3年が経過しました。職員も使い方に慣れ、リアルタイムで細やかな情報の共有をスムーズに行う事が出来るようになりました。また、速やかな業務内容の見直しにも有効であり、リアルタイムで適切なケアを職員が統一して提供できるようになりました。

3. 人材の育成

継続している介護力向上勉強会において、今年度は「入居者本位の関わり」を実行するために、業務やご入居者との関り方について見直しを行いました。勉強会を通じて職員の意識統一を図ることができ、今後のモチベーションアップに繋がったという意見が多く聞かれました。来年度は、それぞれの職種の専門性が生かされる業務の確立について取り組みたいと考えています。また、今年度は新型コロナウイルス感染症の流行を受け、予防や

対応に資する指導を繰り返し行いました。手洗い・うがい・手指消毒、マスク着用の徹底やウイルスに感染しない・持ち込まない・拡げないための注意喚起及び感染症発生時の行動シミュレーション等を行い、感染症に対する知識と意識向上に努めました。

4. リスクマネジメント

身体拘束については、1名の方のミトン使用を中止させることができました。また継続中のご入居者に関しては可能な限り廃止できるよう、毎月話し合いを重ねています。

介護事故の予防に関しては、各ユニット会議にて発生原因の分析・改善策策定及び実行の確認を行い再発防止に努めましたが、服薬関係のヒヤリハットは件数を減らすことができませんでした。今後も対応についての検討を繰り返す必要があると感じています。

5. 防災対策

施設全体で行われる防災訓練では、日中想定、夜間想定との違いを意識しながら参加しました。防災委員会の反省記録等から、訓練の度に気づきや課題を見つけることができ、次の訓練時に生かしていきたいと思えます。

行事

開催月	行事名	実施内容
6月・7月	季節行事（ユニット別）	七夕（浴衣撮影、音楽会、風鈴づくり）等
8月	特養夏祭り	屋台、ゲーム、撮影 等
10月・11月	秋の季節行事（ユニット別）	運動会、ハロウィン、月見団子作り 等
12月	特養 クリスマス会	スライドショー、撮影 等
2月・3月	節分行事（ユニット別）	豆まき、ひな祭り 等

苦情状況

発生月日	内容	対応
なし	なし	なし

※参考資料

（1）入居利用者の実態

①介護度及び保険者（令和3年3月31日現在）

要介護度		1	2	3	4	5	計
総社市	男	0	0	1	5	5	11
	女	0	0	3	10	17	30
	小計	0	0	4	15	22	41
岡山市	男	0	0	0	0	1	0
	女	0	0	0	1	3	0
	小計	0	0	0	1	4	0

倉敷市	男	0	0	0	0	1	1
	女	0	0	0	1	3	4
	小計	0	0	0	1	4	5
高梁市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	1	0	1
	小計	0	0	0	1	0	1
真庭市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	1	1
	小計	0	0	0	0	1	1
玉野市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0
吉備中央町	男	0	0	0	0	0	2
	女	0	1	0	1	0	2
	小計	0	1	0	1	0	2
計	男	0	0	1	5	6	12
	女	0	1	3	13	21	38
合計		0	1	4	18	27	50

① 年齢構成（最高年齢：105歳、最少年齢：64歳、平均年齢：90.1歳）

	～64	65～ 69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90～ 94	95～ 99	100 ～	計
男性	0	1	2	4	2	1	2	0	0	12
女性	1	0	0	2	4	8	15	5	3	38
合計	1	1	2	6	6	9	17	5	3	50

② 年間の入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	1	0	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1
退所	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1

③ 退所理由

長期入院	他施設入所	在宅復帰	死去	(死去の内、施設内での看取り) (3名)
3名	0名	0名	6名	

(2) 稼働状況 (稼働率：%)

従来型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利 用者数	1435 (1440)	1509 (1391)	1468 (1479)	1525 (1542)	1481 (1508)	1420 (1475)	1502 (1515)	1452 (1482)	1458 (1522)	1480 (1502)	1354 (1368)	1523 (1481)	1467 (1475)
ベッド 稼働率	95.7 (96.0)	97.4 (89.7)	97.9 (98.6)	98.4 (99.5)	95.5 (97.3)	94.7 (98.3)	96.9 (97.7)	96.8 (98.8)	94.1 (98.2)	95.5 (96.9)	96.7 (94.3)	98.3 (95.5)	96.5 (96.7)

() は令和1年度

(3) ショートステイ稼働状況 (稼働率：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利 用者数	506 (483)	529 (542)	440 (515)	526 (544)	518 (531)	519 (483)	532 (515)	510 (505)	560 (475)	519 (455)	476 (445)	541 (563)	514 (504)
ベッド 稼働率	84.3 (80.5)	85.3 (87.4)	73.3 (85.8)	84.8 (87.7)	83.5 (85.6)	86.5 (80.5)	85.8 (83.1)	85.0 (84.2)	90.3 (76.6)	83.7 (73.4)	85.0 (76.7)	87.3 (90.8)	84.6 (82.7)

() 内は令和1年度

(4) 待機者の状況 (※従来型とユニット両施設希望者も含む。)

保険者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
総社市	2	1	87	91	44	225
倉敷市	0	0	16	10	6	32
岡山市	0	0	2	2	1	5
高梁市	0	0	6	1	1	8
新見市	0	0	1	1	1	3
井原市	0	0	0	2	0	2
真庭市	0	0	2	1	1	4
矢掛町	0	0	2	0	0	2
浅口市	0	0	0	0	0	0
津山市	0	0	0	0	0	0
吉備中央町	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	3	0	1	4
合計	2	1	119	108	55	285

月	行事食	月	行事食
4月	お花見 → 中止	10月	ふれあい祭り → 中止
5月	おやつ作り → 各ユニット	11月	そばうち → 中止

6月	おやつ作り → 各ユニット	12月	クリスマス会 → お弁当ケーキ
7月	七夕 そうめん流し → 中止	1月	お正月料理 餅つき中止 → ぜんざい提供に変更
8月	お盆 ミニ夏祭り かき氷	2月	節分 握り寿司 → 3回実施
9月	敬老会	3月	ひな祭り 握り寿司

2. 特別養護老人ホーム（ユニット型）

ユニット型特養は、稼働率目標 97.0%に対して 97.5%という実績で1年を終えることができました。来年度は空床期間を1日でも減らせるよう今まで以上に関係機関との連絡を密にし、ご入居者の体調管理に注意しながら稼働率のアップに繋げていきたいと思えます。

また、24時間シートに関しては、誰が見ても解るようにと試行錯誤を繰り返し、現在の状況に合った情報を更新し見直しをかけていきました。ご入居者の方は日々、状態に変化がみられ更新頻度が多く複雑なため、今後も更新しやすい方法を探っていきます。

1. サービスの質の向上

〈ケアマネ・相談員〉

- ・新規のご入居者には入居時にご本人やご家族から生活歴及び詳細な事柄について聞き取りを行い、個々に合わせたケアマネジメントに努めました。把握したニーズやケアプランを多職種で共有し、チームケアの実践に繋げました。
- ・新型コロナウイルス感染症の施設内への持ち込みを防ぐため、アクリルパーテーションや、モバイル端末を利用した面会に切り替えることで直接の接触を避け、ご入居者とご家族間の面会をできるだけ継続することができました。
- ・コロナ禍においてご家族の来訪が減少し、ご入居者及びご家族の思いや要望を直接伺うことが難しくなりました。そこで状態を伝える電話連絡の際にご要望等を伺い、その内容を職員間で共有し、できる限り日々の生活に反映させることで、途切れることなく個別ニーズを満たす対応を行う事が出来ました。

〈看護〉

- ・各職種よりご入居者の状態報告を受け、その方にとって適切な看護方法の検討や、処置及びケア内容を看護職員間で共有することで、提供する看護の標準化を図る事が出来ました。
- ・看取り時において、多職種からの情報・ご家族の思い・医師の考えや治療方針等様々な情報を看護職員が間に入って調整し、各関係者と連携することで、穏やかな看取りケアを提供することができました。今後も更によりよい看取りが提供できるよう、継続していきます。
- ・ヒヤリハット報告書及び事故報告書について、エビデンスに基づいた対応策を検討し実践しました。
- ・感染症に対する適切な予防方法や発生時の対応手段について、ユニット会議等での研修や感染症対策委員会において情報の共有を行った結果、今年度においては感染症の発生を防ぐことが出来ました。

〈介護〉

- ・介護力向上勉強会において入居者本位の関わり方について見直し、職員の資質向上を図りました。また他ユニットとの情報交換や勉強会での課題をユニットに持ち帰り協議することで、職員一人ひとりの意識やモチベーションの向上を図ることができました。
- ・以前から手掛けていた24時間シートと一覧表について、実際に使ってみたところ改善が必要と思われたため、必要な情報を取捨選択し、見やすく活用しやすい様式に変更しました。今後も協議を重ねて改良し、有効に活用することで統一したケアの提供ができるように努めていきます。

〈栄養（給食）〉

- ・食事摂取基準の見直しに伴い、ご入居者の介護状態及び食事形態を分析・考慮の上献立を作成したことで、個別の対応を行う事ができました。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため中止する行事が多く、実施できることが限られましたが、回数・場所の分散等、密を避ける方法を工夫検討し、握り寿司・ミニ夏祭り・クリスマス会のお弁当等、感染対策を行いながら可能な限り実施することが出来ました。
- ・嚥下困難な方や看取りの方等、ご利用者の状態や能力を多職種と連携しながら確認し、食形態の決定や補助食品の選定等個別に対応することで、可能な限りの食事及び栄養の摂取をして頂くことが出来ました。

〈機能訓練〉

- ・訓練計画を立案する際に目標を明確化する事で、生活リハビリや個別訓練の内容変更にも早急な対応ができました。また、本人の意思を汲みとったプラン策定に際し、意思表示が困難なご入居者に対しては、職員がその方に最適であると予想される訓練内容を検討し、計画立案することで、どのご入居者に対しても可能な限りその方に適した訓練を提供することが出来ました。
- ・機能訓練前には日誌やパソコン申し送りの確認及び介護職員や本人からの聞き取りによる体調確認を行った上で訓練を実施しました。気になる点があれば多職種間で情報共有や意見交換の上、早期に対応することで適切な訓練を提供し、その後も経過観察を継続しながら情報を共有することで、常に訓練内容の微調整を行う事が出来ました。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、専門分野の研修会、勉強会、学会の全てが中止された為、講義形式研修の機会が激減しました。そのため書籍や動画サイトを活用して新しい情報や知識を獲得し、訓練や生活の中で活かせるよう実践や情報発信に努めました。

2. 組織の活性化

パソコン共有フォルダを活用した申し送りファイルの運用を開始して3年が経過しました。職員も使い方に慣れ、リアルタイムで細やかな情報の共有をスムーズに行う事が出来るようになりました。また、速やかな業務内容の見直しにも有効であり、リアルタイムで適切なケアを職員が統一して提供できるようになりました。

3. 人材の育成

継続している介護力向上勉強会において、今年度は「入居者本位の関わり」を実行するために、業務やご入居者との関わり方について見直しを行いました。勉強会を通じて職員の意識統一を図ることができ、今後のモチベーションアップに繋がったという意見が多く聞かれました。来年度は、それぞれの職種の専門性が生かされる業務の確立について取り組みたいと考えています。また、今年度は新型コロナウイルス感染症の流行を受け、予防や対応に資する指導を繰り返し行いました。手洗い・うがい・手指消毒、マスク着用の徹底やウイルスに感染しない・持ち込まない・拡げないための注意喚起及び感染症発生時の行動シミュレーション等を行い、感染症に対する知識と意識向上に努めました。

4. リスクマネジメント

身体拘束については、1名の方のミトン使用を中止させることができました。また継続中のご入居者に関しては可能な限り廃止できるよう、毎月話し合いを重ねています。

介護事故の予防に関しては、各ユニット会議にて発生原因の分析・改善策策定及び実行の確認を行い再発防止に努めましたが、服薬関係のヒヤリハットは件数を減らすことができませんでした。今後も対応についての検討を繰り返す必要があると感じています。

5. 防災対策

施設全体で行われる防災訓練では、日中想定、夜間想定との違いを意識しながら参加しました。防災委員会の反省記録等から、訓練の度に気づきや課題を見つけることができ、次回の訓練時に活かしていきたいと思えます。

※参考資料

(1) 入居利用者の実態

①介護度及び保険者（令和3年3月31日現在）

要介護度		1	2	3	4	5	計
総社市	男	0	0	1	2	3	6
	女	0	0	4	8	7	19
	小計	0	0	5	10	10	25
岡山市	男	0	0	0	1	0	1
	女	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	1	0	1
倉敷市	男	0	0	0	1	1	2
	女	0	0	0	0	1	1
	小計	0	0	0	1	2	3
高梁市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0

真庭市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0
玉野市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	1	1
	小計	0	0	0	0	0	0
吉備中央町	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0
計	男	0	0	1	4	4	9
	女	0	0	4	8	9	21
合計		0	0	5	12	13	30

④ 年齢構成（最高年齢：103歳、最少年齢：66歳、平均年齢：89.1歳）

	～64	65～ 69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90～ 94	95～ 99	100 ～	計
男性	1	0	0	1	0	4	1	1	1	9
女性	0	0	0	1	3	6	7	3	1	21
合計	1	0	0	2	3	10	8	4	2	30

③年間の入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	1	1	0	1	0	0	1	1	0	2	0	2
退所	2	0	0	1	0	0	1	1	2	1	0	3

④退所理由

長期入院	他施設入所	在宅復帰	死去	(死去の内、施設内での看取り)
2名	1名	0名	8名	

(2) 稼働状況（稼働率：97.5%）

ユニット型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用者数	884 (871)	896 (930)	882 (900)	911 (927)	930 (921)	882 (898)	912 (924)	876 (900)	908 (926)	868 (900)	840 (870)	891 (930)	890 (908)
ベッド稼働率	98.2 (96.8)	96.3 (100)	98.0 (100)	98.0 (99.7)	100 (99.0)	98.0 (99.8)	98.1 (99.4)	97.3 (100)	97.6 (99.6)	93.3 (96.8)	100 (100)	95.8 (100)	97.5 (99.2)

()内は令和1年度

(3) 待機者の状況 (※従来型とユニット両施設希望者も含む。)

保険者	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
総社市	0	2	42	42	20	106
倉敷市	0	0	6	1	2	9
岡山市	0	0	0	2	2	4
高梁市	0	0	4	0	0	4
新見市	0	0	2	0	1	3
井原市	0	0	1	0	0	1
真庭市	0	0	0	0	1	1
矢掛町	0	0	0	0	0	0
浅口市	0	0	0	0	0	0
津山市	0	0	0	0	0	0
吉備中央町	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	3	1	4
合計	0	2	55	48	27	132

月	行事食	月	行事食
4月	お花見 → 中止	10月	ふれあい祭り → 中止
5月	おやつ作り → 各ユニット	11月	そば打ち → 中止
6月	おやつ作り → 各ユニット	12月	クリスマス会 → お弁当 ケーキ
7月	七夕 そうめん流し → 中止	1月	お正月料理 餅つき中止 → ぜんざい提供に変更
8月	お盆 ミニ夏祭り かき氷	2月	節分 握り寿司を3回実施
9月	敬老会	3月	ひな祭り 握り寿司

3. G&Rデイサービスセンター

今年度は稼働率の目標値を毎月達成することができ、平均稼働率 96.7%と高位の稼働率を達成する事ができました。稼働率を求めるあまり、現在の事業所規模の維持が危ぶまれた時期もありましたが、通常規模のまま今年度を終える事が出来ました。今年度の実績から、緩和型通所サービスへの参入は現時点では不要と判断し、来年度も見送る事となりました。事業所規模のコントロールを行いながら、出来る限り高位の稼働率を維持していけるよう努めてまいります。また、デイサービスでの介護業務マニュアルを一新し、根拠ある科学的介護の実践に取り組みました。

1. サービスの質の向上

〈相談〉

ご利用中の小さな体調不良、着替えや持ち物に関する事等、細目にご家族の意向確認を行うと共に、その内容を申し送りや会議等において職員全員で情報を共有した結果、ご家族ご

利用者のニーズに沿ったサービス提供につなげる事が出来ました。また、都度ケアマネジャーへの報告や情報の共有・連携を確実に行う事で、各事業所の意見や考えを聞く機会を多く持てたことが関係構築に繋がったのではないかと思います。

〈看護〉

ご利用時には必ずバイタルチェックを行い、一日を通しての健康状態の把握と異常の早期発見に努めました。異常時の報告を迅速・細やかに行った事で、必要な対応変更や多職種での情報共有をスムーズに行う事ができ、在宅生活継続の問題発生に対して積極的にケアプランに沿ったケアが実践出来たと思います。機能訓練では、個々のご利用者に適した計画を作成・実施し、身体機能の把握と適切な運動の提供を行った結果、ご高齢なりにも「動ける体」を維持していただく事ができました。

〈介護〉

ご利用者数が多く、業務に追われる事からどうしても「待つ」事が難しい場面が多くありました。ご利用者の動作を待てず、職員が介助してしまう事が多かった事は、ご利用者の残存機能維持の妨げになったと思います。「見る・聴く」事に関しては、ご利用者の身体的異常の早期発見や、若かりし頃の話しや好きな物の話し等を多く聞く事ができました。しかし、ご利用者の話しを本人の意欲向上に繋がらされたとは言い難いです。

2. 組織の活性化

収集した情報は、反省会やデイ会議等にて職員間での共有及び検討を図る事で、一貫したサービスの提供を実施しました。また、今まであった業務マニュアルを見直し、一つ一つの業務についての根拠や、働く姿勢及びご利用者に対する職員の姿勢等を盛り込んだものにリニューアルしました。職員間で共有し、意識と業務の標準化を今後も継続して行って参ります。

3. 人材の育成

コロナ禍により外部研修への参加は見合わせた為、環境的・時間的に学習機会の確保が難しく、今年度は積極的な知識・技術の習得へ取り組むことが出来ませんでした。しかし、毎月実施の職員研修が各部署単位での開催となった事を活用し、デイサービスに特化した研修内容に構成することができた為、日常業務での活用に直結したことはとても有効であったと思います。

4. リスクマネジメント

交通事故予防については、朝礼時に安全運転実施に対する注意喚起を行うと共に、各職員の運転技術を考慮した送迎配置を行った事で、無事故という結果を得ることが出来ました。

感染症対策においては、手洗いや手指消毒、物品の管理・消毒等を昨年度から継続して実施し、新たに、アクリルボードの設置・インカムの使用・訓練やレクリエーション内容の変更等、徹底した新型コロナウイルス感染症対策を行いました。併せて、職員へも新型コロナ

ウイルスに感染しない・持ち込まない為の注意喚起を行った結果、感染者が発生する事なく今年度を終わりました。

介護事故発生防止については、ヒヤリハット報告書が出た際、発生原因を徹底的に追及し、確実に実行できる改善策の策定と実施に努めました。また、デイ会議ではヒヤリハットの振り返りを行い、改善策実施の確認及び改善策の修正を図り、再発防止に努めた結果、同内容でのヒヤリハットが発生する事はありませんでした。

5. 防災対策

施設全体で行われる土砂災害及び火災を想定した避難訓練に参加しました。実際に災害が発生した場合を想定しながら避難経路等を自分達で考えることで、多くの気づきを得ることができました。

行事

開催月	行事名	実施内容
4月	桜だ！花見だ！宴会だ！	屋台の物を飲食し、職員による余興を見ながら宴会の雰囲気を楽しむ
5月	皆で作ろう！みたらし団子	みたらし団子を作り食す
6月	うどんのトリコ（取り粉）	うどんを作り食す
7月	コロナに負けない！石鹸作り	手洗いダンスの実施。石鹸に関する回想法。石鹸作り
8月	踊って暑さを吹き飛ばそう！	盆踊り。スイカ割。職員対抗スイカ早食い競争
9月	アルバム作成	利用者ごとのアルバムを作成し持ち帰る
10月	今日は運動会気分↑↑	運動会が連想出来るチーム対抗プログラムを行う
11月	迷わぬ日々	牛乳パックからしおり作り
12月	つきとったりコロナ！ 皆で丸めてたべちゃおう！	餅つきし、鏡餅とぜんざいを作る
1月	デイサービス de 初詣	参拝、絵馬作成、獅子舞鑑賞
2月	デイサービスから人生の先輩へ 100の愛をこめて	感謝や愛情表現を様々な形で表現し壁画とし展示する
3月	プロジェクト X 挑戦者たち ～うまい、ぼたもち作りへの挑戦～	あんこからぼたもちを作り食す

苦情状況

発生日	内容	対応
なし	なし	なし

4. 居宅介護支援事業所

令和2年4月に職員1名の異動、9月に職員1名の退職で2人体制となり、新規の受け入れが思うようにできませんでした。職員の異動や退職により今年度は稼働率が目標値に届きませんでしたが、担当交代時には職員間で綿密な準備と情報共有を図り、ご利用者やご家族からのトラブル・苦情はなく引き継ぎを終えることができました。

1. サービスの質の向上

新型コロナウイルスの感染拡大に伴って外部研修がほとんどなくなり、オンラインツールを使用したものに様変わりしました。今年度はネット動画の活用や、職員間での意見交換及びロールプレイング等を取り入れ、実践力を上げる勉強会に切り替えることで、知識・技術の向上に繋がりました。また、市のケアプラン点検を受けた際には職員間で確認・情報共有を図り、居宅全体のケアプラン作成における質の向上に努めました。

2. 組織の活性化

月に一度行われるミーティングにおいて、職員全員が共通認識を持って計画が実行できるよう、毎月の取り組み課題、取り組み内容を共有し、その後、課題を全員で確認・考察することで、事業計画を確実に実行できるよう努めました。また、提供票配布の役割分担や各サービス事業所のパンフレット整理、職員2人体制に伴う日曜日出勤のあり方の検討等行うことで業務負担の軽減・効率化に繋げ、個々のケアマネが孤立することなく連携した業務を行うことができました。

3. 人材の育成

職員が目標を持ち、知識や専門性の向上に向けて自己研鑽できるよう、各自で目標設定と課題改善の為に取り組み内容の検討を行い、介護支援専門員のアウトカム評価シートを用いて自己評価を行いました。また定期的に自らのケアマネジメントプロセスの振り返りを行いつつ、取り組んでいる自己研鑽の進捗状況について確認し、ケアマネジメントの質の向上に努めました。

4. リスクマネジメント

運営基準減算・報酬返還等にならないよう、5月と1月に自己点検シートを用いて各点検項目に添いながら職員間で確認を行い、意識付けや周知を図りました。新型コロナウイルス感染症の流行により、モニタリング訪問やサービス担当者会議の開催が不相当であると思われる場合には、対応方法について市に確認し、職員間で情報を共有しました。また個人情報の取り扱いに関する注意喚起、その他の書類・資料等の整理整頓を行い、漏洩や書類紛失等の発生を防ぐことができました。

5. 防災対策

施設内における防災訓練に参加し、法人内での災害時における初期対応や避難援助ができるよう知識の習得や技術の向上に努めました。今年はコロナ禍ということで今一度、感染症予防対策について職員間で話し合い、感染予防に努めました。引き続き感染対策の予防に努めながら、次年度は感染防止と災害対策、感染症や自然災害発生時における業務継続に向けて介護支援専門員

として備え、対応できるよう計画策定に取り組んでいきたいと思ひます。

苦情状況

発生日	内容	対応
なし	なし	なし

5. ケアハウス

令和2年度は新型コロナウイルス感染症に対する対応に追われた1年となりました。総合事業の開始に伴い、通所サービスでは利用時間の短縮や入浴不可、訪問介護では今までして頂けていたことが出来なくなる等ご入居者が不自由になったと感じる生活を送っていた中、コロナ禍により面会禁止、外出禁止、施設内でのマスク着用等更に窮屈な生活を強いることになりました。ご入居者・ご家族のご理解は得られているとはいうものの、筋力低下や引きこもり状態を目の当たりにして心苦しく感じましたが、ご入居者の健康や命を守る為、施設内での新型コロナウイルス感染症発症予防を第一とした選択は正解であると考えています。

1. サービスの質の向上

〈相談〉

心身の状態変化を漏れなくご家族に連絡し、適切な医療を受けていただくことで、ご入居者の健康を維持することが出来ました。また、介護保険サービス等に関しては事業所やケアマネと連携して利用調整に努め、ご入居者が混乱することなくサービスを利用していただくことが出来ました。

〈介護〉

生活面に置いて、ご入居者の中には個別の希望やこだわりを訴える方も多いため、施設としてできることと出来ない事及び公平性等をしっかりと検討し、可能な限りの対応を行いました。また、ご入居者の嗜好を把握した行事を企画・実施しました。強制せず任意での参加を告知することに努め、参加者は少数ではありましたが、ご入居者にはニーズにあった楽しみを得ていただけたと思ひます。毎週行っている百歳体操については、ご入居者に筋力低下に対する危機感の自覚がある為、毎回ほぼ全員の方が参加されており、制限が多い中、最低限の運動の機会を得ていただけたと思ひます。

2. 組織の活性化

コロナ禍の為、一年で一番の大きな行事であった施設の祭りが中止となった為、他部署と大きく関わる機会はありませんでしたが、各部署が参加する連絡調整会議において、意識的に詳しくケアハウスでの課題や現状を説明するように心がけた事で、ケアハウスの状態を知っていただけたのではないかとと思ひます。文書で発信するだけではなく、口頭でも説明した事がより効果的であったと感じています。

3. 人材の育成

施設内研修では、コロナ禍の為全体研修は中止となり、各部署ごとに企画・実施したことで在宅に特化した研修を受けることが出来た為、より日常業務の実践に役立つものとなりました。また、今年度はケアハウスに関する制度や規則に重点を置いて、見直しや勉強会を行いました。これまでなんとなく行ってきたことの根拠を確認しながら、感覚的な業務から論理的な業務へ変換する意識付けに取り組むことが出来たと思います。

4. リスクマネジメント

転倒による骨折やそれに伴う入院もありましたが、急激な持病や心身状態の悪化による退去が続いた年となりました。本来であれば家族対応であったり、滞りなく入院や退去となるところですが、受け入れ施設が見つからなかったり、入院となるまでの経過時間が長かったりと職員の対応で生活を支えざるを得ないケースが複数ありました。「速やかに」と言うわけにはいきませんでした。ご家族やケアマネと連携しながら適切な相談援助を行い、事故や過失、他ご入居者への多大な迷惑の発生に至る事なく、対応することが出来ました。

5. 防災対策

今年度の避難訓練では、ご入居者に事前告知をせず、実戦を想定した訓練という形で取り組みました。ほとんどの方が自主的に指定された場所へ避難することが出来ましたが、中には拒否や否定はされませんが、足腰の痛みやめんどくさを理由に訓練に参加されない方もおられ、今後の課題が浮き彫りになりました。有事の際には全員無事避難ができるよう課題の把握と対応方法の確立に取り組んでいきたいと思っております。

(1) 入居者の実態

①要介護度及び出身地

	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
総社市	2	1	5	3	1	1	0	0	13
岡山市	0	0	0	0	1	0	0	0	1

②年齢構成（最高年齢：97歳、最少年齢：77歳、平均年齢：89.2歳）（令和3年3月末現在）

性別	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	合計
男性	0	0	0	0	0	1	0	1
女性	0	0	0	2	0	4	7	13

③ 在籍年数（平均3年8月）（令和3年3月末現在）

年数	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上～ 8年未満	8年以上～ 10年未満	10年以上
人数	3	4	4	1	0	2

④ 入退居状況

退居者数 6 名（長期入院：1 名、他施設入所：3 名、死亡退去：1 名）

入居者数 5 名

(2) 懇談会開催状況

開催日	懇談内容	出席者数	出席職員数
令和 2 年 6 月 24 日	「熱中症について」	14	4
令和 2 年 9 月 9 日	「防災訓練について」	14	4
令和 2 年 12 月 29 日	「薬に関するお願い」	11	3
令和 3 年 3 月 30 日	「免疫力アップの鍵は生活習慣」	9	3

(3) 行事活動実施状況

実施月	実施内容
R2. 4 月	お花見ドライブ、いちご大福作り、蒸しパン作り
5 月	バーベキュー、あじさい作り、マスク作り
6 月	スイーツバイキング、豆腐白玉作り
7 月	フルーツビュッフェ、花植え、ひまわり花作り、トウモロコシ収穫
8 月	かき氷作り、そうめん作り、貼り絵
9 月	おはぎ作り、貼り絵
10 月	さんま炭火焼き、パンケーキ作り、お茶会、貼り絵
11 月	たこ焼き作り、紅葉ドライブ
12 月	忘年会、貼り絵
R3. 1 月	新年会
2 月	握り寿司（日清実演）、餅焼き、菜の花作り
3 月	すき焼、お花見ドライブ、貼り絵

※レクリエーション：週 1 回、百歳体操：週 1 回、買い物：月 1 回、習字：月 1 回

(4) 苦情状況

発生日	内容	対応
なし	なし	なし

6. 地域包括支援センター

新型コロナウイルスの影響により、年度当初は活動が制限される中ではありましたが、3密を避けるよう内容を変更する等、感染症対策を行いながら、徐々に活動を再開することが出来ました。なかでも感染症の流行により、閉じこもりになりがちな高齢者の居場所づくりや交流の場づくりとして認知症カフェや百歳体操開催の支援に注力していくことが出来ました。また、昨年度に引き続き施設内研修を包括に特化したものに出来た事で、地域を支える一員としての自己研鑽や知識の習得を行い、困難事例についても対応していくことのできる事業所づくりをしていく

ことが出来ました。

1. サービスの質の向上

地域の相談窓口としての機能を強化するため、月に一回事業所内で勉強会を開催し、新しい知識の習得や事例検討を行ってきました。来年度は高齢者のみではなく、幅広い世代の重層的な課題に対応していくことができるよう、各福祉制度や相談援助技術の習得を深めていきたいと思えます。

2. 組織の活性化

施設内での人事異動等で職員の交代があり、積極的に意見交換をすることで新しい視点による業務改善を行うことができました。また、昨年度に引き続き、事業所内でのミーティングを定期的に行い、意見交換の場を設けることで職員間の意思の統一を図ることができました。

3. 人材の育成

コロナ禍により外部研修の機会が以前に比べ減ってしまいましたが、WEB研修会などの情報収集を行い、感染症対策に留意をしながら参加をすることに努めました。また、新任職員に対して積極的なコミュニケーションを心掛けて業務指導を行い、利用者に不利益が発生することなく業務の引継ぎを行う事が出来ました。

4. リスクマネジメント

個人情報の取り扱いに留意しながら、事例対応について定期的に部署内で確認をすることで、遅れや間違いのないよう各職員が対応できる体制づくりに努めることができました。また、給付管理等の事務処理を複数の職員が行えるようにする等、可能な限り業務を分担することで災害や、感染症等による緊急時でもできる限り事業が継続できる体制づくりに努めました。

5. 防災対策

法人内の避難訓練に参加するなど非常時について平時より意識し、迅速な対応が出来るよう努めて参りました。また、災害時において地域住民の避難行動を把握し、要配慮者への対応ができるよう、次年度以降も引き続き行政、地域住民との協働・連携に努めて参ります。

苦情状況

発生日	内容	対応
なし	なし	なし